

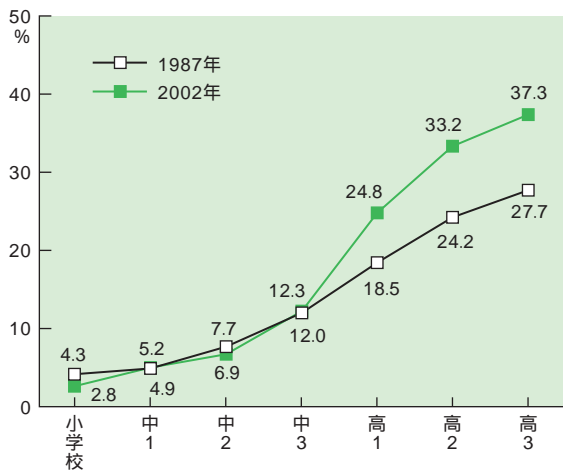
の母親ですが、この話ほどでないにしても、男の子と母親の母子一体は現在強まっていると言われます。これは男の子にとっても母親にとっても不幸です。思春期になればだれもが自立の途を歩み始めるように、信頼しつつ客観的にお互いを見つめたいものです。そこで男の子を持つ親のみなさんにお願ですが、月経や妊娠のない男の子に対しても思春期以前に自分と女性の間から・性への知識、並びに自己中心でない交流の仕方を教えて、性において自他ともに対等に大切にできる市民的モラルを築いておいてほしいのです。

### 女の子(女性)について

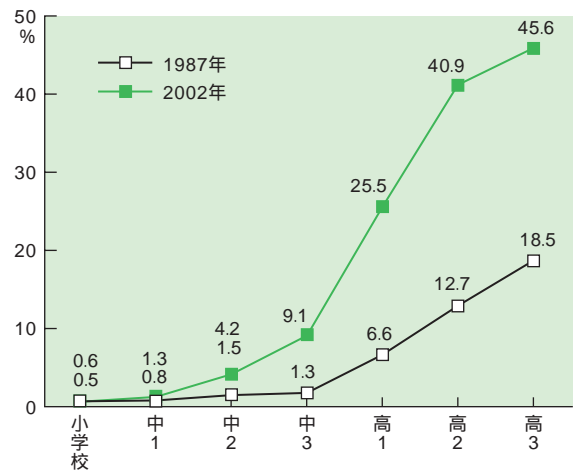
女の子の問題ですが、女の子は素直で逆らわないこと、性的には常に未成熟で受け身であることを望まれます。とくに日本では、他の先進国に比べて、まだこのようなジェンダーに基づいた意識が強く残っています。この話の彼女も被害者として同情しますが、自己主張を押し通せず、避妊に関する知識もなかった点では受け身であり未成熟です。何度も言いますが妊娠は女の子のからだにしか起こらないのです。また女性の性器の大部分が体内にある構造上、性感染症にもかかりやすく重い症状になりやすいのです。だからこそもつと自分のからだ・性についてよく知り、主体性をもって安全と健康のため自己主張できる力を性教育でつけてほしいのです。また彼女の両親ですが、この重い話のなかで唯一救われる思いのする存在です。彼女を責めて「なん

てふしだらな」とか「私の子じゃない出て行け」などと言っていたら、恐らく彼女は自己崩壊していたはずで、一般的に親は「うちの子に限って」と思いがちです。しかし表2のように高校三年生の初交累積率が一九八七年に比べ大幅に増加し、それでいて避妊が確実にされていない状況や表3のように若者の性交のパートナーが多数化する現状では、望まない妊娠や性感染症は他人の子どものことではありません。だから何かあったときに子どもを主体に考え、世間体や親の権威で取り乱さないことが必要です。さらに言えばトランプルにあわないために、やはり性についても日頃から話し合える環境を家庭内に築いておいてほしいものです。その際に「男はみんな狼だ」とか「あれをしてはだめ」とか警戒や禁止ばかりを話しているのは「あなたは無

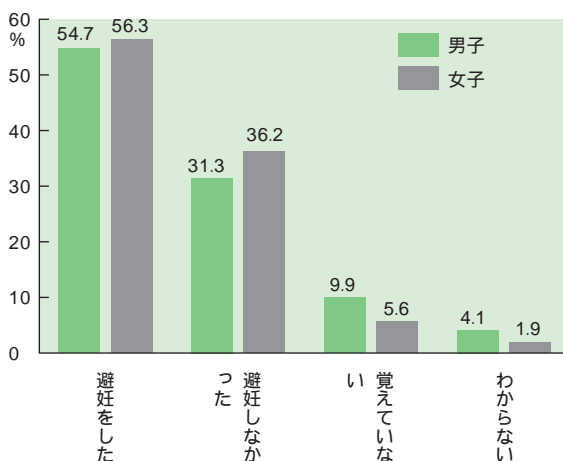
表2 初交累積率(高3男子)



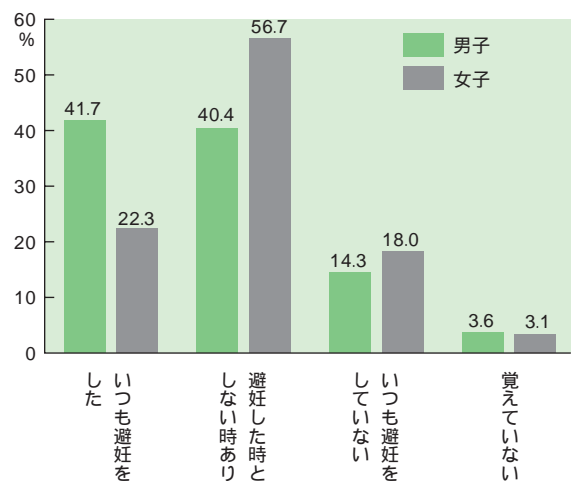
初交累積率(高3女子)



初交時の避妊状況(高校全)



複数回性交の場合の避妊(高校全)



資料出所：2002年調査「児童・生徒の性」東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学校の性意識・性行動に関する調査報告より